

～子供の声を聴こう！これからの学校づくり～



魅力だより



No.2

R6. 8月

高校教育課学校教育生徒指導班

1 学期も終わり、夏休みを迎えました。

今回は、「魅力ある学校づくり」に向けて取り組まれている学校の中から、県「魅力ある学校づくりプロジェクト研究協力校」の取組を中心にご紹介いたします。

意識調査の結果を基に職員研修を行ったり、4つの視点を意識した研究授業を行ったりしておりますので、ぜひ、2学期の取組の参考にさせていただけるとありがたいです。

南さつま市立加世田中学校の取組（県「魅力ある学校づくりプロジェクト研究協力校」）

1 意識調査を実施し、数値の低かった項目

「授業に主体的に取り組んでいる」を重点項目に設定

→ 教師と生徒の認識にズレが生じている？

【意識調査項目】

ア 学校が楽しい

イ みんなで何かをするのは楽しい

ウ 授業に主体的に取り組んでいる

エ 授業がよくわかる

2 教師が考える「生徒が思う授業に主体的に取り組んでいる姿」ってどんな姿？



教師と生徒のズレに着目した協議

・私は、子供たちは、主体的に取り組んでいると感じていたけれど、生徒は、「主体的に取り組んでいないと感じているんだね。」

・生徒が「授業に主体的に取り組んでいる姿」ってどんな姿だろう？

→ 自ら分かろうとする、自ら方法を選んで課題に取り組む、自ら課題を設定、分からないことを進んで調べる、友達に教えている姿 等

3 全生徒が、「当てはまる」を回答 するための具体的な取組方法を協議

【教科の枠を超えて、共通実践できること】

- ・1年部・・・授業の構えの徹底
- ・2年部・・・授業の流れ(学習の順序, 学習方法)の提示
認め合う場面(教師から生徒, 生徒間)の設定
- ・3年部・・・振り返りの時間の設定



・生徒指導提要にもあるとおり、発達支持的生徒指導は、「全ての児童生徒を対象に、全ての教職員が全ての教育活動において行う」とされており、「魅力ある学校づくり」でも、管理職と実務担当者の連携と学校全体での意識の共有が大切です。

・加世田中では、学年、教科、職の枠を超え、子供を主語にした話合いが活発に繰り広げられていました。



「意識調査」は強肯定評価に焦点化!!

【意識調査】

現在の学校生活について、あなたはどのように感じますか。当てはまるものを右の1から4の中から選び、その欄に○を付けてください。

	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
ア 学校が楽しい	1	2	3	4
イ みんなで何かをするのは楽しい	1	2	3	4
ウ <u>授業に主体的に取り組んでいる</u>	1	2	3	4
エ 授業がよくわかる	1	2	3	4

必要最小限の調査で負担軽減も図りながら意味のある取組をねらう!

・学習と人間関係に絞った質問

・4件法

・無記名式

・学年単位で集計

※「1」に「当てはまる」に焦点化する!

和泊町立和泊小学校の取組（県「魅力ある学校づくりプロジェクト研究協力校」）

授業に内在化した生徒指導を意識した授業実践 ～第4学年 算数科「2けたでわるわり算」



共感的な人間関係の育成

- ・問題を解き終わったから、友達と交流しよう。みんなはどう書いているかな。
- ・Aさんの説明は、分かりやすいね。
- ・その図の描き方だとよく分かるね。
- ・なるほど、そういう考えもあるね。

【4つの視点】

- ① 自己存在感の感受への配慮
- ② 共感的な人間関係の育成
- ③ 自己決定の場の提供
- ④ 安全・安心な風土の醸成



自己存在感の感受への配慮

- ・すごい、分かりやすくまとめているね。
- ・ここ、おもしろいね。どうしてそう思ったの。
- ・なるほどね。そう考えたんだ。すごいね。



授業研究（4つの視点を基に協議し、付箋で整理）

- ・児童一人一人を認め褒めていたので、子供たちも嬉しそうにしていた。
- ・子供たちが、「分からない」といえる関係性ができていた。
- ・子供たちに学びの形態（個人、ペア、グループ）の選択を任せた。
- ・多様なヒントカードを用意し、必要なカードを自分で選ぶことができた。
- ・複数の練習問題を用意し、自分に適した問題を選ぶことができた。



「学習指導の中に、生徒指導が内在している」ことを教師が意識することがとても大切です。

和泊小学校では、学習指導案（本時案）に「生徒指導の視点」を意識した活動を明記し、その視点を意識した授業が行われていました。このことは、「学習者主体の授業」にもつながります。

紹介 コーナー

霧島市立国分北小学校 子供たちのために!先生方の
パワーがあふれていました。

2学期を迎えるにあたって



県指導主事による講話



教職員の同僚性を高める演習の様子

魅力ある学校づくりを進めるに当たって、大切なことの一つに教職員集団の同僚性があります。

「気軽に話ができる」、「改善策や打開策を親身に考えてもらえる」、「具体的な助言や助力をしてもらえる」等、受容的・支持的・相互扶助的人間関係の形成、組織として一体的な動きをとれるかどうかか鍵となります。

2学期も、ぜひ、「教職員の同僚性」に意識を向けて取り組んでみてください。

各学校では、取組を進める中で、不明なことや疑問に思うことが出てくることと思います。ちょっとしたことでも、どうぞお気軽にお尋ねください。（市町村教育委員会、各学校からでも大丈夫です。）

【連絡先】 高校教育課学校教育生徒指導班（梶原・福元）

TEL 099-286-5532

Email seitosidou@pref.kagoshima.lg.jp

